2008 年 6 月 22 日

¿Como esta?

エルサルバドル共和国 ラウニオン県アナモロス市派遣
青年海外協力隊 19 年度 4 次隊 環境教育 本田 晶子

2008 年 1 月 9 日から 3 月 13 日まで、極寒の中、長野県駒ヶ根市にある青年海外協力隊訓練所で青年海外協力隊として活動するための語学や安全管理などの訓練を受け、3 月 25 日、日本を出発して私のボランティア活動国、エルサルバドルに 3 月 26 日に到着しました。2010 年 3 月までの 2 年間、エルサルバドルの最東部にあるラウニオン県のアナモロス市で、地域住民に環境に関する意識啓発のためボランティア活動します。

4 月 1 日からの 1 ヶ月はスチトト市というところでスペイン語の語学研修を受けていました。5 月に入り、活動地域であるアナモロスに住み始めたところです。まだこの国に来て 3 ヶ月ですが、日本の裏側にある小さな中米の国、エルサルバドルをみなさんに紹介したいと思います。

◆ エルサルバドル共和国の概要

エルサルバドル共和国はアメリカ大陸の中米地域にあり、北はホンジュラス、西はグアテマラ、東はホンジュラスとフォンセカ湾、南は太平洋に取り囲まれています。

四国ほどの小さな国で人口は約 660 万人（2003 年の統計）。

そのほか約 200 万人のエルサルバドル人がアメリカ合衆国へ働きに出ているといわれています。

エルサルバドルは熱帯の外縁に位置し、気温は一年を通じて変動が少なく、最高気温は約 35℃、最低気温は 18℃、平均気温は 25℃。最も気温の高い月は3月と4月で、最も涼しいのは 11 月と 12 月です。乾期は春の6ヶ月（11 月～4月）に起こり、最高気温はこの季節の末期、雨期の始まる前に発生します。年間降雨量は 1,182～1,200mm で 1 年のうちの降雨量分布には大きなばらつきがあります。

1960 年代まで、エルサルバドルは際立った農業国でした。1980 年代には全面的な内戦に突入し、それが 1992 年まで続きます。1990 年代から現在までは国家再興の期間として発展してきましたが、ハリケーン「ミッチ」や 2001 年1月と2月の2度にわたる大地震など自然災害による損害で経済は大きな打撃を受けました。

現在、首都であるサンサルバドルは国内で最も経済の発達した地域で、先進国と思われるほどです。

◆ ラウニオン県アナモロス市の概要

ラウニオン県アナモロス市はエルサルバドル共和国の最も東に位置する県の北部にある市です。人口は市の中心部の都市部に 2,190 人それ以外の村落部に 14,061 人、合計 16,251 人が住んでいます。アナモロス市には 8 つのカントンと呼ばれる集落があります。主な産業は農牧業で、とうもろこしやさとうきび、コーヒーなどを生産しており、肉牛や乳牛を飼う畜産業を営む人が多数です。平均気温は毎月 30℃台以上で国の中でも比較的暑い地域です。年間降水量は 1,800～2,200mm。5 月から雨季が始まりました。夜になると大雨のように激しい雨が降り、昼間はカラッツと晴れます。都市部には銀行や郵便局がありますがスーパーマーケットはありません。日曜には市場が開き、たくさんの店がならびます。

村落部では道が悪く、雨季に入ると道が荒れてしまうようです。また、排水溝も整備されていないため、大雨がふると道に雨水があふれ、土地の侵食や倒木もみられます。

水の供給については、飲料水はエルサルバドルの水道公社が建設した浄水設備の水が一定地域に流れており、この水を各家が汲んで使っています。その他の生活水は、井戸の水や雨水、貯水池や川の水を汲み利用しています。

廃水については、市には下水処理施設がなく、生活排水が道路わきを流れ、川に流入しています。しかしこの川では、住民が洗濯、入浴などしており、生活水の供給にも利用しているのです。

ごみについては、都市部では収集サービスがありますが、村落部は収集サービスがありません。炊事の燃料としている家が多いようです。公共な場所（道、学校、市の運動場、墓等）ではごみのポイ捨てが目立っています。たとえ、そばにごみ箱が設置されていても、その周辺の地面にはごみが落ちています。

ここアナモロスは大きな産業があるわけではなく、親族がアメリカに出稼ぎまたは移住している家族が多く、その送金で暮らしている人もいるようです。ATM がないこの街の銀行は毎日長い行列ができています。

◆ <u>エルサルバドルの印象</u>

さて、ここではこの国で私が気づいたり感じたことなどを紹介します。

●人々

人々はとても陽気で、すぐに声をかけてくれます。暑くて渋い顔をした見知らぬ人でも挨拶すると顔がほころび、ニコニコとした笑顔で挨拶を返してくれます。エルサルバドルの家族は、日本に比べ、結婚年齢が早いので、ひいおばあさんがひまごと一緒に暮らすなど、家族の単位が大きいようです。そのため、親戚が多く、町中に知り合いがとても多いです。そして絆も強いような気がします。夕方になると、縁側のようなところでいすに座り、家族が集まって団欒している光景は、昔の日本の風景と似ているのではないかと思っています。現代の日本が失ってきている家族や近所との人づきあいなどがここでは日常的にみられます。

●生活物資

食事は地元の食材が多いようですが、生活用品はアメリカや周辺諸国、中国製など輸入品が多く、日本と同じようなものが手に入ります。特に大都市のショッピングモールにいくと、日本のショッピングモールと同じくらいの規模で店内もきれいです。ブランド品も日本と価格は同じくらいです。しかし、店で売っている便利な家電製品（洗濯機、エアコン等）が家に揃っている家庭はかなり裕福なようです。衣類をアメリカに住んでいる親類に送ってもらう人も少なくありません。車は日本のメーカーのものが大半を占めています。

便利なものが先進国から次々に入ってきているようですが、その裏に隠れている、安全性や廃棄の問題はあまり認識されていないように感じます。

●食事

主食はとうもろこしを挽いてうすく円形にのばしたものを焼いたトルティージャ。とうもろこしの料理は他にもタマルという、挽いたとうもろこし生地にじゃがいもなどの具をいれてゆでた料理や、ププサという挽いたとうもろこし生地の中にチーズや鶏肉または海老や野菜などを入れたおやきを薄くしたようなものなどあります。他にパンや米類、パスタなども食べられています。一般的な食事では卵やフリホーレス（小豆をにんにく、たまねぎなどと一緒に煮込んだ料理）、チーズがおかずとしています。料理は油や塩分を多く使い、食事には必ず、ジュースがついています。甘いものも好み、ケーキやコーヒーの糖分はかなり高いです。また、着色料などの食品添加物が多く使われた食品も多数あります。食事には日本のように健康のた

めに塩分や糖分、油分をひかえるなどの気を使っていないように思われます。

●交通

基本的に公共交通機関を利用していますが、首都サンサルバドルではバスやタクシーを使い、アナモロス市周辺では、モトタクシーというバイクのタクシーやバス、ピックアップとよばれる乗り合いのタクシーを利用しています。モトタクシーは市内の移動に、バスやピックアップは都市間の移動に利用しています。ピックアップはバスよりも頻繁に道を行き交っていて便利ですが、車の荷台に人が乗車するので、道が悪く、運転スピードが速い場合は荷台にしっかりつかまっていないと身の危険を感じます。どれも時刻表があるわけではないので、少し時間に余裕をみて行動しないといけません。不便ではありますが、温暖化防止の側面からみると、毎日の通勤ラッシュなど、車 1 台に 1 人しか乗っていないことが多く、一人当たりのエネルギー消費量が多い日本の車社会事情より、1 度にたくさんの人を運び、消費エネルギーの縮小化や渋滞も緩和できるこのシステムは効率的であるようにも思えます。

そのほか道の悪い村落部では人々は馬を使い移動しています。目的地までに川がある場合や野犬が咬みついてくること、急な坂で石がごろついていることが多いので、バイクや自転車より馬は便利なようです。

●スチトト市

語学研修中の 1 ヶ月を、首都より北に位置するスチトト市で過ごしました。首都ほど都会ではなく、傍に大きな湖がある小さな観光町ですが、観光客も多く、週末になると外国人も多く見られました。大きな教会が町の中心にあり、湖の景色もよく、町並みもとてもきれいなところです。大きな町ではないので、住民同士は知り合いが多く、日本からきた私達にも親切にしてくれていました。観光の町だけあって、ごみのポイ捨てなどは少なかったのですが、湖近くはごみが目立っていました。しかしこの町は廃棄物の分別収集を行っていて、各家庭で生ゴミを分別していました。ここは衛生埋立場やコンポスト、資源ごみ（プラスチック類や缶類）の集積所、さらに下水処理施設も存在します。これからこの国で環境教育活動をしていく私にとって、これらの施設を語学研修中に見学できたことはとてもよい経験になりました。

町での生活自体はアナモロスとあまり変わりません。ホームステイ先の家族は朝 5 時半ごろ起き、朝の涼しいうちに掃除や洗濯をすませます。庭にマンゴーなどの果物の木があり、その枯葉が毎朝落ちているのでそれをほうきでそうじします。部屋もほうきで掃いた後、たまにモップがけします。洗濯はpilaと呼ばれる水桶に溜まった水を利用し、洗い場で手洗いしています。庭に洗濯物を干し終わると身じたくを済ませ、朝食をとります。夜はテレビをみたり家族で団欒したりして 21 時から 22 時ごろに就寝します。わりとゆったりとした生活です。

●アナモロスの自然

アナモロス市の概要は先にお伝えしましたが、ここの良さは緑が多い景色だと感じます。日本の山のように木がびっしりとつまっているわけではありませんが、草原にとても背の高い大きな木がぽつぽつと生えています。そして真っ青な空が広がっています。乾燥しているためか、どんなに暑くても木陰に入り、そよかぜを浴びると、その風は涼しく、とても気持ちがよいです。人々はこのような自然を自慢げに「きれいでしょう！」と教えてくれます。その心を大事にして、この自然を守っていってほしいと願っています。

◆ <u>最後に</u>

今回は、このエルサルバドルという国、そして私が住んでいる田舎町アナモロスについて紹介しました。この国の言語はスペイン語です。今年の 1 月からスペイン語を勉強してきましたが、まだまだうまく話すことができず、自分の言いたいこと言ったり、相手が話していることを十分理解することが難しいところです。

ボランティア活動もまだまだこれから。地球の裏側の小さな国、エルサルバドルをもっとたくさん知り、日本にいるみなさんに紹介できるよう、そしてエルサルバドルにいるたくさんの人々が一緒に地球環境を守ることができるよう、活動していきたいと思っています。